

こうじ 工事の げんば 現場より

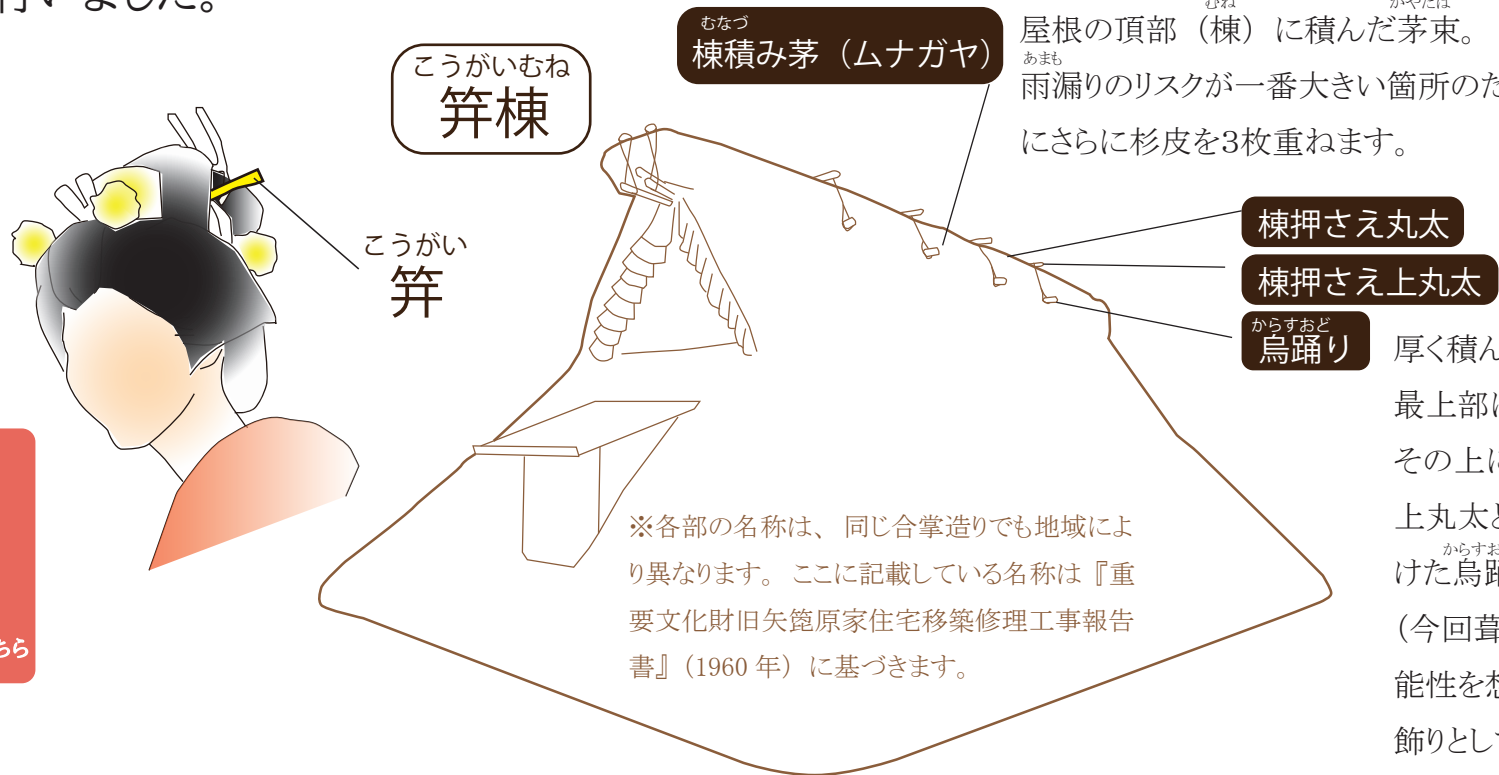
旧矢筈原家住宅 保存修理事業

8月5週目

今はこんな様子だよ。



茅葺屋根の葺替作業はお盆休みを経て作業を再開し、頂上（棟）付近の施工に取り掛かりました。合掌造りの棟の作りは「筭棟」というもので、筭（簪〔女性が頭に付ける髪飾り〕の一種）のように取り付いた「烏踊り」（別称：ミズハリ）が特徴の一つです。独特の施工方法があるため、白川郷の職人の指導を受けながら、慎重に施工を行いました。



※各部の名称は、同じ合掌造りでも地域により異なります。ここに記載している名称は『重要文化財旧矢筈原家住宅移築修理工事報告書』（1960年）に基づきます。

厚く積んだムナガヤを押さえつけるため、最上部に棟押さえ丸太を棟方向に流し、その上に棟押さえ上丸太を置く。棟押さえ上丸太と、屋根の途中に差し込む形で設けた烏踊りを藤蔓で結びつけます。（今回葺替では藤蔓が劣化により切れる可能性を想定し、結束は太い針金で行い、飾りとして藤蔓を取り付けます。）



からすおど
烏踊りの材料検査、材種は栗、大きさは直径12～15cm、長さ3～3.5m。搬入した材料の状態を確認し、適切なものを使用するべく検査を行う。



からすおど
烏踊りを屋根上まで持ち上げる作業の様子。重量があるため4人がかりで行う。



からすおど
烏踊り設置作業。位置や傾きを確認しながら、慎重に設置しました。



からすおど
烏踊りの周囲に茅を取り付け、烏踊りの周囲から水が入らないようにする。